

広島南支部会報

Hiroshima Nursing Association Hiroshima Minami bulletin magazine

広島県看護協会広島南支部会員数

保健師	24人(入会率30%)
助産師	70人(入会率109%)
看護師	2,052人(入会率77%)
准看護師	62人(入会率13%)
合計	2,208人(入会率67%)

ごあいさつ

GREETING



支部長
佐々邊 やよい

広島県看護協会広島南支部会員の皆様におかれましては、平素より支部事業の円滑な運営にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大・収束を繰り返す中で、令和3年度の支部活動においては、研修等が可能な限り開催できるように開催方法

の検討を行いながら運営を行ってまいりました。

その中で、関連職種地域連携研修ではケアマネットとの共催により、初のWEB研修を開催しました。地域の他職種とのグループワークを通して、自施設の取り組みを振り返る機会とすることができました。また、広島南支部看護研究発

表会についても、WEB形式で開催することができました。日々の看護場面での気づきを研究的視点で捉え、看護研究に取り組まれた成果を共有することができました。WEB形式での研修は100人という人数制限がある中ではありますが、今後も参集が難しい状況となった場合には活用していきたいと考えております。

広島南支部では、研修を支部で行う目的を、「地域で行われている看護実践を身近に感じ、今後の自施設での取り組みに活かせる」として、より実践的な内容となるような企画となるよう取り組んできました。

今後も、あらゆる場で働く看護職が連携を図り、地域で生活している対象者の暮らしと医療を支えていけるよう、支部活動を行ってまいります。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

事務職員の紹介

今年1月より前任者の平田さんの後を務めさせて頂いております。

事務員の仕事は未経験ですが、一つずつ勉強しながら頑張っております。

これからも、会員の皆様のために、広島南支部の活動が円滑に進められるように、役員の方々と一緒に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

広島南支部事務所 事務員 京本 ひとみ



南支部施設紹介

▶ 訪問看護ステーション エムスマイル 管理者 根津 広美



訪問看護ステーション エムスマイルは令和3年3月、翠町に開設致しました。看護師4名 理学療法士4名 事務員1名でスタートし、さらに看護師1名を加え、皆様のおかげで半年を迎えたところです。“住まいに笑顔を”という当事業所代表の思いを、チームワークで形にしたいというスタッフが集まりました。日々、スタッフ間での情報共有、意見交換を活発に行い、ご利用者様にとって、良い在宅生活とは何かを全員で考え、気持ちに寄り添いながらケアが提供できることを目指しています。また、ご利用者様からの笑顔に、私たちも支えられており、充実した毎日を過ごさせていただいております！

今後も、在宅看護において信頼していただける事業所で在り続けられるよう、スタッフ一同精進してまいります。

南支部総会
リフレッシュ
研修

こんな時こそ笑い！ 笑門福来！

講師 広島弁爆笑落語家 ジャンボ衣笠先生

開催日：令和3年4月24日(土) 10:00～12:00
場 所：南区役所別館4階 大会議室

参加者：13名

研修を終えて

連休前の晴れた日の土曜日、令和3年度広島県看護協会南支部総会が開催されました。広い会場に役員以外の出席者は少数でした。コロナ禍の折、三蜜になることもなく会は、つつがなく終了しました。

当日は、その後の特別講演会「こんな時こそ!笑門福来!」と題して、広島弁笑落語家のジャンボ衣笠さんが来られるということが、私の邪な参加動機だったりもしました。短い時間ではありましたが、病院あるある、高齢者の健康あるあるなど、日常のちょっとしたクスツと笑える内容を、巧みな話術



と表現力で、落語の神髄の一端を垣間見ることができた思いです。コロナ禍のこんな時にこそ、一服の清涼剤としての“笑い”を届けていただき、ちょっと得した気分でした。早く超満員の会場で、ガハハッと大声で笑い、手と手を合わせられる日が来ることを祈りつつ、会場を後にしました。

ハローナースシーサイド 菅田 智子

令和3年度看護協会 広島南支部総会

開催日:令和3年4月24日(土)10:00～12:00

場 所:南区役所別館4階 大会議室

出席者:総数1,693名(内訳)出席者31名 委任状1,662名

進路相談会

今年度から進路相談会は、各支部開催に変更になりました。広島南支部では、ふれあい体験の際に進路相談会を各施設で開催し、広島大学病院 18名・県立広島病院 60名・広島シーサイド病院 2名・ヒロシマ平松病院 14名の参加者がありました。

7月30日ヒロシマ平松病院では、ふれあい看護体験・進路相談会に参加した、高校生の方の感想をいただきました。

ふれあい看護体験・進路相談会を終えて

1. 看護の現場で、看護の仕事を目撃に見学、体験することで、看護という仕事を選びたいという思いが強くなった。また、実際の現場や先輩看護師からの話の中から「やりがいのある仕事」という言葉がすごく印象に残った。
2. 短時間であったが、実際の現場で患者への声かけの様子や他部署との連携からコミュニケーション能力が大切であると気付くことができた。
3. ニーブレイスの装着体験や車椅子への移動体験を通して、患者の大変さを知ると共に患者の負担を減らす配慮についても学んだ。
4. 進路相談会での説明や2・3年目の看護師からの経験等、今後の進路や「こんな看護師になりたい」等目指す看護師について具体的に変わった。



看護研究
事業

第21回 広島南支部看護研究発表会

講師 広島大学大学院医系科学研究科 藤本 紗央里先生
座長 未来桜坂訪問看護ステーション 中山 奨先生

開催日：令和4年2月11日(金) 10:00~12:00
場 所：WEB開催
参加者：46名

演
題

1. 症例からみた心不全緩和ケアにおける看護師の役割
～多職種との意見交換からみえた課題～ 県立広島病院 伊藤 梓
2. 強心薬治療を継続しながら在宅療養へ移行した末期心不全患者への多職種支援 広島大学病院 恵南 和子
3. 外来心臓リハビリテーション通院患者のセルフケア活動を
促進させる看護介入の評価 広島大学病院 草野 帆々美
4. 眼科手術患者のせん妄発症因子の分析と今後の課題 広島大学病院 坂根 愛美
5. 介護医療院における急変時に対する職員の不安軽減
～急変時シミュレーション研修を行って～ 広島シーサイド病院 半田 絢子

研修を終えて

今年は、新型コロナウイルス感染症まん延防止により、WEB 開催で5 演者の研究発表会でした。その中で「症例からみた心不全緩和ケアにおける看護師の役割」の演題に関心がありました。私の中で、緩和ケアと言えば癌患者というイメージでした。患者や家族へ病期の理解、治療と並行して緩和ケアを行う、身体的苦痛・精神的苦痛を和らげる、多職種との意見交換の大切さを再認識しました。何より患者の生命・生活の質が大切であること、看護師の役割の重みを改めて実感しました。

ヒロシマ平松病院 黒瀬 真理子



組織強化
研修会

医療・介護現場で看護職が巻き込まれやすいトラブル

講師 前川・小川法律事務所 弁護士 前川 秀雄先生

開催日：令和3年11月20日(土) 10:00~12:00
場 所：南区役所別館4階 大会議室
参加者：23名

研修を終えて

今回、この研修会参加理由は、テーマに「看護職が巻き込まれやすいトラブル」があり、また弁護士の方から講義が受けられる点がありました。講義の中で医療裁判の動向、広島医療訴訟提起件数、広島医療訴訟連絡協議会での取り組みなど初めて知ることができました。そして、9つの事例を通して、巻き込まれないためにはまず看護記録が重要で、患者の日々の状況、事故直前や事故後の記載はより丁寧に記載すること、同意書など取る場合には、十分配慮して



も予期せぬことまで想定し患者家族にリスクについて説明していくことも時には重要であることも学びました。日々多忙な勤務中、巻き込まれないためにどのようにしていけばよいのか。この研修会での学びを勤

務先に持ち帰り、一つ一つ問題点を取り上げながら取り組んでいかなければいけないと痛感しました。2時間の研修会はあっという間に過ぎました。学びが多い研修会でした。有難うございました。

匿名



社会経済
福祉事業

メンタルタフネス研修「過酷な状況乗り越えていくために」

講師 K-COACH 代表 原田 景子先生

開催日：令和4年1月22日(土) 10:00~12:00
場 所：WEB開催 参加者：13名

研修を終えて

研修参加前は、メンタルタフネスというタイトルから「強さ」をイメージしていたが、「ゴムボールのように加わった力を吸収してはねのける力」、「柔軟さ」と伺い、心が軽くなったように感じた。

自身の思考の癖を知るために『認知のゆがみ 10のパターン』に当てはめると、思い当たることがある。今後は、自身の傾向、スタッフ・患者の傾向を知ること、その組み合わせにより起こる化学反応は偶然でなく、認知のゆがみが起こっているのだと考え対応していきたい。

COVID-19 禍が一段落した頃にはスタッフの心に大きな揺



れ戻しが起こると予測される。今回の研修を活かし、過酷な状況に遭遇すると予測される場合は、パステルカラーのゴムボールをイメージし、スタッフと共に乗り越えていきたい。

県立広島病院 木下 真由美

関連職種
地域
連携事業

新型コロナウイルス感染症における在宅療養者・家族への支援のあり方 ～流行期における新型コロナウイルス感染症対策、医療・介護の連携～

講師 訪問看護ステーションレジハピ
所長 篠原 久恵先生(感染管理認定看護師)

開催日：令和3年10月23日(土) 10:00~12:00
場 所：WEB開催 参加者：37名

研修を終えて

保健センターの保健師は、新型コロナウイルス感染症の対応として、積極的疫学調査、入院・宿泊施設入所調整、自宅療養者の健康観察、施設調査、クラスター対応、濃厚接触者等への検査、健康相談等を行っています。

今回、篠原先生の講義を聞き、クラスターが起きた施設



での感染管理認定看護師の方の施設に対する指導の難しさを学ばせていただきました。医療職でも気が付かない、感染を拡大させる何気ない行動をいかに改善していく

のか、また相手側がその指導を受け入れてくられなければ意味がなく、相手に合わせた指導がいかに重要であるかを改めて認識しました。

今後、感染が拡大し自宅療養者が増えた場合、医療と介護の連携がより重要になってきます。今回の研修や日ごからの顔の見える関係づくりをとおして、さらに連携が深まることを期待しています。

南保健センター 西村 真弓



編集後記

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、支部活動の研修方法に変更が生じ、WEB形式での研修や、感染対策をとりながら少人数での参加で開催することができました。支部会員の方々のご支援により、無事に広報誌を発行することが出来ましたことに感謝いたします。次年度も支部活動へのご参加及び、ご協力を宜しくお願い致します。

南支部事務員在室日

火・水・金

9:30~13:30

(但し、都合により変更となる場合があります)



[発行日] 令和4年3月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島南支部事務所
〒734-0001 広島市南区出汐1丁目11-4 シェンワ出汐107号室
TEL/FAX:082-254-4794 E-mail: s-minami@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 佐々邊 やよい